

様式第 1 号（第 6 条関係）

協働事業に関する提案書

令和 7 年 1 月 1 5 日

（あて先）狹山市長

団 体 名 NPO 法人いりそ支え合いたっち
所 在 地 XXXXXXXXXX
代表者名 齋藤 壮伍

次のとおり、協働事業に関して提案します。

1 提案する協働事業	市民提案型協働事業
2 事業名	子育てたっち
3 事業期間	令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 3 1 日
4 事業種別	☒ 単年度事業 ☐ 継続事業
5 事業予算	総額 430, 200 円（内補助金申請額 342, 000 円）
6 事業概要 ※100 字以内で簡潔に記入し てください	子育て中のメンバーが企画運営し、毎月 2 回入曽地域交流センターでお話し会や運動、モノづくりなどを実施します。参加者が自分の気持ちに目を向けられるよう、活動中はスタッフが同室でお子さんを見守ります。
7 希望する担当課 ※不明の場合は未記入	こども支援部 保育幼稚園課（入曽保育所）
8 添付書類	☒ 協働事業に関する企画書（様式第 2 号） ☒ 協働事業収支予算書（様式第 3 号） ☒ 協働事業実施スケジュール（様式第 4 号） ☒ 協働事業提案団体概要書（様式第 5 号）

様式第2号（第6条関係）

協働事業に関する企画書

団体名 NP0 法人いりそ支え合いたっち

1 事業名	子育てたっち
2 事業の詳細	子育てをしている実感として、子育て＝母親、ママという概念、ひいては親だけがやってあたりまえという概念がまだまだ多くあります。 それは当事者達が、閉塞感や孤立感を募らせると共に、子育てを親だけが抱え込んでしまう危うさをはらんでいると考えます。 大人が保護者として参加する子育て支援活動はたくさんありますが、どれも子供向けの内容で、保護者が自分自身に目を向けられるという趣旨の子育て支援はまだまだ少ない現状です。 子育てたっちは、そこにニーズがあるのではと実体験から感じており、「自分を主語にして話し、エンパワメントが推進され、交流の場として定着し、地域ともつなげる事」ができる場所となっていると考えます
3 実施体制	NP0 法人いりそ支え合いたっちは、全世代型を標榜して活動しています。その活動の一つである子育て世代向け事業（事業名子育てたっち）については、地域活動や子育て経験者が集まり「子育てたっち対応班」を組織し実施しています。この対応班を中心に事業内容の企画立案そして、講師の方をお招きするなどしての様々な内容で事業の運営をしています。 尚、参加者数は、当日の内容や会場を勘案しながら、4名～9名の定員を設定して事業の運営を行っています。 参加者である保護者が、自分の気持ちに目を向けられるような内容を企画し、事務局や保育ボランティアと連携

	し同室保育を行い、親子それぞれにとって過ごしやすい時間になるようにしています。 また、助産師さんをお招きして定期的を開催している、おゆずり会は毎回好評で、物品預かりを入曽児童館がご協力して下さっています。 年齢問わず子育て中の保護者、妊娠中の方の参加も募っているが、小さい子を連れた母対象というイメージがまだある様で、アピールし続ける事が課題ととらえています。
4 役割分担	【提案団体の役割】 ・ 活動の企画 ・ 講師への依頼と日程調整、各種連絡 ・ 当日備品の準備 ・ 当日運営、同室保育サポート ・ 保育ボランティアとの連携 ・ SNS 発信、チラシ作成配布
	【市の役割】 ・ 広報への掲載 ・ 金銭面の補助 ・ 開催場所の確保
5 協働の効果	①より柔軟で多様な子育て支援への進展 子育てたっちは、子育て中の人「保護者」という役割からひととき離れ、「自分自身」と向き合う時間を提供しています。 これにより参加者は心身が安らいだり、育児に対する新たな視点に気づくゆとりが持てると思っています。 また、現在の子育て支援は「子ども向け」が中心です。その中で、子育て中の「保護者向け」という視点の団体と市とが協働することで、子育て支援の在り方がより柔軟で多様な子育て支援に進展していくのではないかと考えます。 ②地域のつながりの活性化と衰退防止につなげる 子育てたっちの活動は、毎回異なる講師（主に市内または隣接市在住）や保育ボランティア（60 代が中心）の協力により成り立っています。

	このことは、地域で活動するあらゆる世代の人々と保護者とのエンパワーメントを通じて、地域の活力を維持・向上させ、衰退を防ぐ効果が期待されます。 市と協働することで、このような共助ネットワークがより強化でき、持続可能な子育て支援や地域福祉事業が推進できます。 ③ 地域住民間での「包括的な支援体制」の拡大 子育てたちの母体である NPO 法人いりそ支え合いたちは、子どもから高齢者までを包括的に支える「全世代型」を標榜しています。 その理念に基づき、子育てたちの講座内容にも福祉の視点を取り入れていて、多様性への理解が深まるきっかけづくりを行っています。 市と協働することで、包括的支援の認知度と効果が高まり、地域住民同士の支え合いの意識を地域内の各層各界へ広げていけると考えます。 ④事業モデルの水平展開 本事業は、NPO 法人いりそ支え合いたちが事業推進のプラットフォームです。その中で“地域活動や子育ての経験者”で組織した「子育てたち対応班」が中心になって地域の方々（多様な講師、保育ボランティア、各種団体など）と連携・協力しながら、地域の子育て支援力を生み出しています。今後、市と協働することで、今まで培ってきたノウハウやネットワーク力を入曽地区（入曽地域交流センター、水野公民館）だけでなく、例えば柏原や笹井、水富地区に水平展開が可能になればと考えます。
6 事業のアピールポイント	先述の協働の効果の他に次のような事業のアピールポイントもあげられます。 ①SNS を活用した周知活動 事業の告知ではチラシの他にInstagramを活用し、申し込みでは Google フォームを利用しています。情報

	が届きやすく、申し込みがしやすい参加者のニーズに沿うためです。 ②地域との連携 おゆずり会における物品預かりや提供先を地域で還元していけるよう各団体と連携（共催、コラボレーションなど）しています。 さらに、地元公民館などで行う事業への参加や地域の文化団体とのコラボ事業を開催することで、地域で進める子育て支援の意義を広める活動も行っています。 ※いりそフェスタ 2024 への参加 この中でこども用品お譲り会を開催。 ※地域事業の共同開催 笑ってつながろう！入曽っ子など。 ③地域と共に進める地域の子育て支援 子育てたちは、「子育てたち対応班」を中心に、地域のボランティアや講師など地域の人と資源を集めて、子育て中の親に向けた企画・運営をしています。そしてそこは同室で過ごす子どもはもちろん、関係者全員が、安全・安心に過ごせる場を提供し、地域と共に進める地域の子育て支援として重要な役割を担っています。そして子育てをキーとした新しい地域コミュニティを作り出しています。 ※地域事業の共同開催 笑ってつながろう！入曽っ子など。
--	--